



春 勝山市の背後に連なる白山連峰

2009.4.3. えちぜん鉄道 勝山市保田駅周辺より



雪解け水を集め、流れ下る九頭竜川 と その後ろに 白山の連峰 勝山 越前鉄道 保田駅周辺 2009.4.3.

春 青春 18 キップが発売されると決まって気になる場所が北陸。決まって北陸に足が向いてしまう。

昨年春 福井 九頭竜湖線で美濃・越前国境へ遡りながら、見られなかった九頭竜川をバックにする白山を今年は是非眺めよう。

北陸の春のキーワード おろし蕎麦 長い長いトンネルを抜けてゆく異郷の地 早春の広大な平野と遠くに連なる白い峰々。

それに「古代鉄」若狭・加越は北陸の鉄をバックに継体天皇も出現したといわれる「鉄」の故地と関係。

早春の景色にどっぷり浸かって、また、良く知らぬ古代の製鉄関連地にも出会えるかも知れぬと。

陽だまりハイクのイメージにはぴったし。

「九頭竜川をバックにする白山」walk にはもうひとつ理由がある。福井から この九頭竜川本流沿いを遡る「えちぜん鉄道」に是非乗ってみたいのである。かつての京福電鉄から受継いで、えちぜん鉄道が九頭竜川本流の河口から川に沿って三国・福井・勝山を結ぶ。かつては この本線が途中で分岐して永平寺までも延びていた。

いつか見た TV で観たえちぜん鉄道のドキュメントが頭にある。「この越前鉄道に 若い女性の車掌さん(今回乗車して知ったのですが、本当はアテンダントと呼ぶそうです)が乗車し、実にきめ細かく乗客の世話をして、実にほのぼのとした雰囲気」が電車に漂い、それが人気となって乗降客が増えた」と言う。

昔 京福電鉄の時代に永平寺まで乗ったことはあるのですが、京福電鉄の時代からどんな風が変わったのか それも興味。



4月3日 早朝 青春18キップを持って「福井へ おろし蕎麦食べにいくわ」と家を出る。

今は 敦賀へ直通の新快速が出来たので、神戸から敦賀までは直通。敦賀で乗り継げば、福井まで1回の乗換えで行ける。

今回は朝ちよっと出遅れ、神戸7時49分初の新快速。敦賀での乗継待ちを避け、早く福井へ到着したくて、新快速長浜行。

長浜から敦賀まで特急1区間乗り継いで、11時41分福井着。

福井駅周辺は北陸新幹線の工事と並行して 南北に走る北陸線の高架化と線路の両側の市街地改造が急ピッチに進められ、この4月 駅の高架化と駅前周辺の整備完成により、従来は北陸のなんとなく重苦しい地方都市の駅だったのが、明るい活動的な駅周辺に一変していました。



北陸新幹線と並行した福井駅高架化・駅前改造ですっかり変わった福井駅周辺

えちぜん鉄道の福井駅は JR 福井駅の南側へ出た高架沿いの小さな駅舎。

構内に入ると自動販売機がない。小さなキップの売り場がある簡素なもの。路線図をみると永平寺への路線がない。

京福電鉄からえちぜん鉄道に引継ぐ時に廃止され、今は永平寺口駅から永平寺の山門前までバス連絡となっていると聞く。古代の鍛冶工房跡があるという九頭竜川の河口の三国へゆくか 永平寺に行って 九頭竜川を勝山方面へダイレクトに遡るか 迷っていると「すぐに 勝山行がです。また、永平寺に行くなら拝観券・シャトルバスセットの乗車券がいい。」と窓口から声。「とりあえず 永平寺へ行って そばを食べて……」とセット券を買って 電車に飛び乗る。



JR 福井駅出口すぐ横に隣接するえちぜん鉄道福井駅 2009.4.3

平日の昼食時 一番閑散とする時間帯であるが、電車の座席はざっと埋まっている。電車が走り出し、各駅に止まってゆくが、ほとんどが無人駅なのですが、人の乗降がある。

地方の昼下がりの電車はがらがらで人の声もせず、また、無人駅には乗降もないというのが昨今ののですが、えちぜん鉄道では車内に話し声がし、駅では常に乗降がある。

「これは違うぞ」である。

えちぜん鉄道のキーワードは

「女性アテンダント・地域密着のサービス・ほのぼの接客」と聞いていましたが、まさにそれ。ほのぼの電車の体現でした。

街の中心で、人であふれていた駅が 今は無人駅となり、何

にも出さなくなり、列車の発着も激減して、公共機関としての役割もままならぬ現状と随分差がある。

この鉄道に公共機関復活 駅を中心とした街活性化のキーワードがあると乗っていて本当に楽しい電車でした。



勿論 久しぶりの永平寺 九頭竜川の流れの向こうに真っ白な峰々をみせる白山連峰も見ることができました。
 また、今回は歩けませんでした。弥生後半から古墳時代の初め「鉄」の先進地をほこった北陸の王国の中心 松岡古墳群やそれを支えた鉄器工房集落 林・藤島遺跡がこの沿線のすぐ近くであることを知り、土地勘が出来ました。
 次は事前に確り調べて 福井平野 鉄の大王国 Walk にもう一度来ようと。
 そんな ほのぼの電車 えちぜん鉄道 Walk の体験を沿線写真アルバムとともに紹介します。



1. ほのぼの電車 えちぜん鉄道 永平寺勝山線 車中で

列車内にただよう ほのぼのとした暖かさにびっくり

1 えちぜん鉄道+バス+拝観料セット券

**えちぜん鉄道
(福井⇄永平寺口)
往復乗車券
+
バス**

**大本山永平寺
拝観料**

大人	2,100 円
中学生	1,800 円
小学生	1,000 円



福井と永平寺・勝山を結ぶ九頭竜川沿いのえちぜん鉄道 2009.4.3.

電車が出発すると乗務する若い女性アテンダントが次々と乗客に声をかけ、切符を確認してゆく。
 それが お年寄から赤ちゃんまで 本当にみんなに一言ずつ 笑顔で声を掛けてゆく。実に自然である。
 永平寺のセット切符をみせると、「永平寺口駅のすぐ出た所に 路線バスもいるが、えちぜん鉄道のシャトルバスが待っている。
 帰りも そのバスで……」と永平寺の案内パンフ シャトルバスの時刻表 のりば案内図 なども持ってきてくれる。
 「永平寺へ行きますが、その後 白山 見たいのですが、今日は見えましたか……」と聞くと「今日は素晴らしい白山 お奨めです」と。
 「永平寺口から 乗り継いで、さらに勝山方面 小舟渡駅か次の保田駅辺りが良い」と教えてくれる。一辺にファンに。
 お年寄りの前では 腰を低くして 同じ高さの目線で話しかけ。乗降するお年寄りにも 本当にゆっくりと……。
 ある駅で杖をついていたお年寄が乗車してきたのですが、入口のすぐ横の席に座っていた若者がすぐ立って席を譲りました。
 それを 離れてアテンダントが観ていたのでしょうか そっと若者に近づいて小声で「ありがとう」と。

車内アナウスの本当に極めのこまかい接続案内にも驚きました。

病院への接続バスの時間・乗り方と実に地域密着の乗車している人のためのアナウスである。

電車が空いていからと言う事もありますが、観光客 地域の人 どちらも 笑顔の電車でした。



えちぜん鉄道の車内と女性アテンダント 2009.4.3 (下段中央の写真はインターネットより)

話が前後するのですが、九頭竜川本流と白山を眺める保田駅周辺を walk しての帰路 車窓からの九頭竜川の流れにデジカメを向けているのを観られたのか、「いい写真撮れましたか?」と声をかけてくれる。

「白山がきれいでした。出来れば、このまま 電車を乗り継いで 三国港まで行きたいのですが……。」と永平寺口までの切符の発行と共に案内を請う。すぐに 時刻表を調べてきてくれて、「三国港まで乗継いで1時間ちょっとで行けますが帰りを考えると大阪まで帰ること考えるとほとんど三国周辺歩けないですね」と。

本当に乗客の身になっての丁寧な対応なのである。

また、自動改札口はありませんでしたが、電車は明るく清潔 本当に観やすい車内案内の大きな TV モニターが車内数箇所に付けられるなど、老朽化した地方鉄道のイメージはない。

こんな光景とサービスが出来るのも 電車が上り下り共に 30 分に 1 本 全時間帯に確保されていて、公共交通の役割を果たしているからだと見えました。やっぱり バスもそうですが、乗りたくなる電車は どの時間帯も 30 分間隔程度で確保されていないと人の流れが出来ないとつくづく思う。

駅前衰退改善の話を良く耳にするが、この電車・バスの本数確保からの論議がないのが実効があがらぬ理由ではないか???

以前 えちぜん鉄道の女性アテンダント乗務のドキュメントを見たことがありましたが、今もその取り組みが継続展開され、多くの乗客で明るい雰囲気の中で繁盛していました。 本当にうれしかった電車。

ほかの JR や公共サービスに こんな目線があれば……と思います。

また、電車やバスでは 最初に 30 分に 1 本程度の本数が全時間帯に確保することを抜いた取組では 効果なし。

でも このことに気が付いていない取組がどれほど多いか……。

地方の駅に降り立って感じるわびしさです。

最近 過疎地でのスーパーがセンター病院のすぐ隣に店舗を構え、頻繁に巡回バスを走らす取り組みで成果をあげていると TV が報じていました。また、以前訪れたアメリカアトランタの地下鉄と住宅地を結ぶ住民バスも ヨーロッパの市街地の路面バスもやっぱり同じ目線に見えました。

公共交通・公共機関に考えさせられたえちぜん鉄道の素晴らしい取組でした。



2. 久しぶりの永平寺 永平寺



永平寺口からのシャトルバスと永平寺三門前 2009.4.3.

永平寺口駅に降り立つとホテルの送迎などでよく使われる10人乗りほどのえちぜん鉄道の小さなシャトル。連絡きつぷで このシャトルバスでも 路線バスでも どちらでも時間が合えば乗れるという。

かつては 永平寺口から線路が分岐して、永平寺まで京福電鉄の路線が延びていた。このシャトルに今日は私一人。シーズンはずれたこともあって、独り占め。久しぶりの永平寺 おろし蕎麦も食べて 楽しみました。



3. えちぜん鉄道沿線 九頭竜川本流越しに 眺める白山連峰



春 九頭竜川・勝山市の背後に連なる白山連峰 2009.4.3. えちぜん鉄道 永平寺町 小舟渡駅周辺より



春 九頭竜川の背後に連なる白山連峰 2009.4.3. えちぜん鉄道 永平寺町 小舟渡駅周辺より



春 勝山市の背後に連なる白山連峰 2009.4.3. えちぜん鉄道 勝山市保田駅周辺より



渡し跡 えちぜん鉄道 小舟渡駅周辺 2009.4.3.



参考 弥生後期から古墳時代にかけて 福井平野は「鉄」の先進地

参考資料 「北陸の玉と鉄」弥生王権の光と影 大阪府立弥生文化博物館より



実は 九頭竜川流域が気になりましたのは 北陸の鉄をバックに天皇になった継体天皇の系譜が福井にあることから。

暴れ川九頭竜の名は はじめ 製鉄関連地名かと思って その痕跡を求めて walk をはじめたのですが、福井平野を「のたうちまわる」暴れ川の流路から来ていると聞いてちょっと後ろ向きになっていました。

最近 北陸の製鉄関連遺跡や北陸の弥生に花開いた玉作り文化などを調べていて、この九頭竜川本流の流域が、古代鉄の先進地であることを知り、やっぱり、九頭竜川は 福井の母なる川であるばかりでなく、北陸の古代鉄の故地であると。



越の国を治めた最初の大首長の古墳 手繰ヶ城山古墳

- 九頭竜川の左岸近くの平地 越前鉄道東藤島駅近くの福井市泉田町の集落遺跡「林・藤島遺跡」(弥生後期、西暦200年頃)から全国でも最多の出土数となる 1000 点を超える鉄器、鍛冶(かじ)跡が見つかり、当時の福井が(越の国)が鉄器の先進地域であった事をあきらかにした。
 - また、そこからすぐ南約 3km の永平寺町の松岡丘陵には、紀元 3 世紀から 7 世紀にかけての約 50 基の古墳から形成されている松岡古墳群がある古代山と王権に統合されて行く過程での北陸大王国の王城の地であることを知りました。
- 古墳には数多くの鉄器が副葬されている。
- この北陸王権が林・藤島玉造り工房などへの鉄器の物流を支配していたと考えられている。



福井平野東部 林・藤島遺跡から出土した鉄器 弥生後期

上記しましたように和鉄・製鉄遺関連地がこのえちぜん鉄道沿いにあること理解したのですが、まだ資料そろわず、青春 18 キップによる時刻表と見比べながらの walk では せわしなくて……。

今回は えちぜん鉄道に乗ることと九頭竜川本流から白山を眺めてくることにしました。

九頭竜川に合流する継体天皇の故地である日野川流域もまた和鉄・製鉄関連地。こちらとあわせ是非 「鉄の故地 越の国」Walk を別途 歩こうと思っています。

また、北陸王権の盛衰を眺めると古墳前期 旧鍛冶技術から新高温鍛冶技術への置き換えりによる鉄器工房の衰退が見て取れる。このことは 淡路に於ける垣内遺跡の盛衰と良く似ているといえなだろうか……